

# 札幌市水道記念館

所在地：北海道札幌市



## 既存建築物の再生

本施設は北海道札幌市内に位置する。建物の背景には緑豊かな山容を擁し、前面には札幌の市街地を見渡すことができる。周辺には、伏見稲荷神社、藻岩山ロープウェイ山麓駅などがあり、観光客や余暇を楽しむ市民で賑わうスポットとしても注目を集める地域である。建物の用途は水道事業について体験できる施設となっている。

**施設の変遷と再生の経緯**／「札幌市水道記念館」は、昭和12年にはじめて札幌市民へ水を届けた旧藻岩第一浄水場の建物の一部を活用して、昭和52年に誕生した施設である。その後、昭和62年に1階展示室の全面改装、平成7年に、2、3階に展示室を新たに開設し、水道事業に関する展示資料が一般公開されるようになった。平成9年に隣接する藻岩浄水場の大規模改修工事が開始され、一時休館していたが、平成15年に改修工事が完了し、水道記念館の再開に向けた検討作業に着手することとなった。しかしながら、経年劣化に伴う建物の劣化や耐震性能が低下していることが判明したため、建物の保全ならびに耐震補強を実施する必要もあ

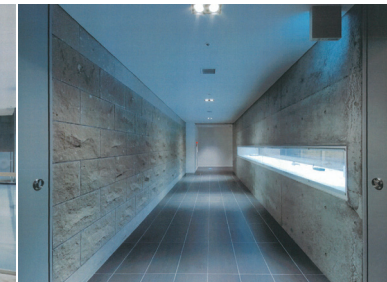
り、施設の機能を全面的に見直した新しい「札幌市水道記念館」として再生された。

**設計コンセプト**／設計コンセプトは市民が水道事業と出会い、じかに触れることのできる機会を提供するとともに、市民と水道事業の豊かなコミュニケーションを育む「接点」をテーマとした。外観は水道記念館としてふさわしい建物を目指した。昭和初期の設計である既存のデザインを活かし、シンメトリーで美しいファサードを残した。多くの方々にこの施設を通して、水道の魅力を感じてもらえることを目指した。空調設備は、二次側冷暖房設備として気流を嫌う展示物を設置する為、空調気流に注意し、単一ダクト方式による置換空調方式を採用した。空調ダクトは、原則床下ピット内に収め、展示スペースへのダクト配置が見えない方式とした。

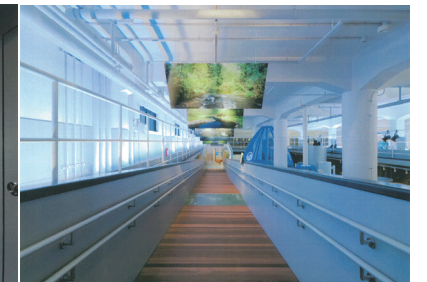
また、一次側冷暖房設備である熱源設備では、暖房熱源として浄水場余剰電源より電気蓄熱式温水暖房機、冷房熱源として空冷式チラーユニットとした。



水盤上の多目的ギャラリー



歴史的収蔵品の展示スペース



スロープを活用した展示計画